

令和 5 年 1 0 月 2 4 日

西部農林水産振興センター益田事務所農業部

| | |
|------------|--------------------------------------|
| 標 題 | GAPのハードルを下げるツール「あるあるシート」を配付開始 |
|------------|--------------------------------------|

(ダイジェスト)

GAP に取り組む心理的なハードルを下げ、GAP を身近なものとしてとらえてもらうために、「GAP あるあるシート」を作成しました。今後、各種講習会や総会などで配付して「GAP をする」ことで経営改善につなげるとともに、GAP 認証取得を支援します。

GAP (Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理) に取り組むことは、生産管理の向上、効率性の向上、生産者や従業員の経営意識の向上などにつながることから、農業経営の改善に積極的に取り入れていくべきツールです。

しかし、作業日誌をつけるなど既に「GAP をする」ことには取り組んでいることが多々あるにもかかわらず、心理的なハードルで敬遠される生産者が多いのが現状です。

そこで、農業部では GAP を身近に感じてもらうため「GAP あるあるシート」を作成し、関心を高める取り組みを始めました。これは、GAP に関する様々な取り組みをそれぞれ 1 枚のチラシにしたもので、「GAP の一部は既に取り組んでいる」「GAP に取り組むにはこういうことに気をつければよい」「こんなことも GAP の取り組みの一つだったのか」など、気づきの機会として現在 30 種類作成しています。

これらは、講習会などでランダムに配付します。このため、隣席の人とは異なるものが手に入り、別の講習会に出席すると別のあるあるシートが手に入るといったように、様々な事例を知ってもらえるようにしています。「次はどんなあるあるシートが手に入るのだろう」と、遊び感覚を持ちながら気楽に学んでもらえることを期待しています。

先日、ある生産組合の総会で配付したところ、生産者からは「取引先から GAP 認証の有無を聞かれたことがある」など、早速 GAP に関心を持ってもらえました。

GAP に取り組むと、「GAP 認証をとる」ことが目的となりがちですが、取得して終わりではなく、継続的に「GAP をする」ことで農業経営の改善に活かしていけるように支援していきます。



「GAP あるあるシート」 (一部抜粋)